



今日、私たち二三四人の福島県民は福島地方検察庁に福島原発事故の責任を問う、告訴を行いました。事故により、日常を奪われ人権を踏みにじられた者たちが力をひとつに合わせ、怒りの声を上げました。人に罪を問うことは、私たち自身の生き方を問うことでもありました。

# 映画「原発震災を問う人々」シリーズ最新作 フクシマから東海村へ 主権在民



e-mail:aitaro7@yahoo.co.jp

西山正啓 監督 / ドキュメンタリー / 100分 / 2012年作品

## 「主権在民」映画上映会

2012年 / ドキュメンタリー / 100分 / 西山正啓 製作・監督作品

日時：2012年11月3日(土・祝) 10時より

会場：元寺小路教会 会議室 入場料：無料

主催：「女川原発の再稼働を許さない / 2012みやぎ秋のつどい」実行委員会

連絡先 022-373-7000 篠原 [hag07314@nifty.ne.jp](mailto:hag07314@nifty.ne.jp) 謹啓

### 【西山正啓監督のメッセージより抜粋】

東海村には30Km 圏内に105万人もの住民が暮らし、100Km 圏内に日本の人口密集地の首都圏に最も近い東海第2原発があります。いったん事故が起きれば3千万人を超える首都圏住民は何処へ避難すればいいのか。茨城県は原発震災の被曝地でもあります。桜の名所でも知られる村内の公園や緑地には高濃度放射能汚染を示す立ち入り禁止の看板が立てられロープが張られています。内部被曝の脅威、不安に晒されながら生活する人々。

東海村の村上達也村長は政府に廃炉を要求しています。1999年にJCO臨界事故を経験し、今回の地震・大津波では原発が僅か70センチの差で冠水を免れたという危機感から脱原発への意思は強固になったといいます。「金で魂は売らない」と明言する村長。その姿勢に共鳴する若い母親たちが議会に廃炉を求める署名・請願を行うなど脱原発への活発な取り組みを始めた。日本初の東海原子力発電所が稼働して以来、原子力産業・研究機関が集中立地された村の内部で地殻変動が起き始めたのです。7月末には「東海第2原発差し止め訴訟」が提訴。

一方、福島から6月11日に重要なメッセージが発せられた。「福島原発事故の責任をただす！本日、福島地検に告訴！！」この映画のラストシーンは福島原発告訴団が1324人の陳述書と告訴状を福島地検に提出する誇り高き行動である。地検に向かう武藤類子団長の姿は凜として輝いていた。彼女は言う。「加害責任を追及しないと次の新しい価値観が生まれない。傷ついた被害者がきちんとした言葉で、陳述書に書いて外に出す。そうやって傷ついた者たちが生きる力を取り戻し、回復してゆくプロセスがとても大事だと思う。だけど人を罪に問うことは、私たち自身の生き方を問うことでもありました」と。原発事故の原因究明と収束は未だ成らず。だが原発再稼働ありきの政府方針は変わらず。3.11以後この国の何が変わり、何が変わらないのか。フクシマから東海村から、主権在民の行使が始まる。